



わかば

2020. 6. 13
(令和2年) 第20-10号

文責 校長 保谷 力

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

教育目標 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

重点目標 一人一人の笑顔輝く学校づくり～期待登校・満足下校～

新型コロナウイルス感染拡大防止のための自宅待機が続く中、保護者、商工会の皆様には、PJSの学校教育にご理解、ご協力を頂き、心より感謝申し上げます。

現在、日本国内に於いては、時差登校を用いることで学級規模を縮小し、三密を避けるなど、段階的に学校を再開し始めているところです。PJSにおいても、一日も早い学校の通常再開が期待されるのですが、お借りしている現地ミドルスクールの再開状況やコロナ対応策等により、当面の通常再開は難しいものと考えられます。

PJSでは、これまでに5回のオンライン授業を行ってまいりました。初めはネット環境の不具合などから、授業への参加がうまくできないなどの問題もありましたが、回数を重ねるごとにトラブルも減少し、現在では円滑な授業参加ができているものと理解しております。お子様の横でサポートをしてくださっている保護者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

PJSでは、この状況が数か月間続くことを想定して、幼児・児童・生徒の年間指導計画を見直し、多少進み方が早くはなるものの、子供たちが知らなかった、習わなかったということのないように、毎回の授業進度について学年で綿

校長 保谷 力
密な話し合いを行っています。以前にもお伝えしたように、こうしたオンライン授業だけでは、子供たちの学習の確実な定着は見込めません。どうぞ、引き続きご家庭内でのご支援をお願いいたします。

さて、毎週発信させていただいている「わかば」ですが、お陰様で新年度版10号を迎えることができました。校長による日本国内からの投稿になりますので、子供たちの様子や先生方の様子がなかなか見えず、大変苦慮しておりました。そこで、PJSの子供たちに、このステイホーム期間中の出来事や感じたこと、考えたことなど作文やメモとして送っていただきました。作品は、小中学生から集まりました。送られた作文を見て、この期間が子供たちの生活にとって有効な時間として位置づいていることを感じました。不自由だからこそ、家族が協力し合ったり、親子で勉強したりできるのだと思いました。そして、このように共有された時間を家族みんなが楽しんでいるように感じました。

今回は1年生からの投稿です。まだ文字が自由に書けない1年生ですので、お家の方がしっかりと聞き取っていただいたのだと思います。どの子供も「学校大好き!」「お勉強大好き!」感が伝わる作文になっています。



1ねんせい の 声



日本人学校はお勉強できるのでいつも楽しみ。ペクソック先生は優しい。お友達は元気そうで、早く会いたい。

1組 もくだい しゅう

先生の算数の授業が楽しいです。なぜかというと、車だったら一台・二台・三台、鉛筆だったら一本・二本・三本と教えてくれるからです。国語は花の道をみんなで読むのが好きです。

1組 あんどう ひなた

オンライン授業は楽しい。ひらがなとかいっぱい書く。日本人学校が始まったら、ひらがなと漢字をもっと頑張りたいです。学校でお友達もたくさんつくりたいです。

1組 ほりうち さち

オンライン授業は、楽しいです。そして、久しぶりにみんなの顔を見れるのが嬉しいです。

1組 いき だいち



さみしいとうれしい。おともだちとあそべないからです。おうちでさぼれるからです。

2組 なかしま おうた

いまのパソコンをつかってのじゅぎょうはちょっとすきです。いつもさわれないiPadがさわれるからです。

でもおともだちにあえないのがいやです。はやくがっこうがはじまってほしいです。

2組 ガリド ジェームス

クラスのおともだちとあえないのはさみしいけど、みんなでいっしょにきょうかしょをよむのがたのしい。

2組 シュウ ソフィア

たのしい。ビデオがとまったら、わからなくなるのでかなしい。

2組 ミラー めい



毎日おもしろくて楽しいです。早く学校に行ってみみんなの
本当の顔が見たいです。 3組 みやもと さな

お家で先生やお友達と会えてるみ
たいで不思議に思います。

3組 あさの まこ

ぼくは、さいごにみんなでパプリカを
おどるのが好きです。

3組 クラーク しおん

コロナウイルスで学校へいけない
けれど、みんなといっしょにべんき
ょうできて、うれしいです。

3組 やまだ ゆずか



ステイホームが長くなった子供たち、本当ならピカピカのランドセルを肩から掛けて、元気に校門をく
ぐって登校していました。オンライン授業でも、みんなで勉強することは楽しいようです。



書評の海

普段から日本語で書かれた本が手に入りにくい上に、日本の本屋さんの支店も、わずかながらも日本語の本を貸し出
す地元図書館も閉まっている。そんな状況で、「日本語の本を読もう」と呼びかける原稿を一体どのように書いたら
いいものか。

考えあぐねてネットの世界をさまよっていたら、「オール・レビューズ」という書評の無料閲覧サイトに行き当た
った。

フランス文学者の鹿島茂氏が始めたこのサイトは、「明治以来活字メディアに発表されたすべての書評を閲覧可能に
する書評アーカイブの構築」を目指すそうである。今話題の本だけでなく、だいぶ前に出版された本の評もあり、気
に入った書評家の文章を次々読んでいくこともできるし、一冊の本について複数の書評家によって書かれた評を読み比べ
ることもできるらしい。

おススメのところに、ジョン・アーヴィングの「オウエンのために祈りを」の書評があった。だいぶ前に読んだ本に
ある。新訳が出たのかと思ってクリックしたら、なんと1999年に書かれた書評であった。20年前に同じ本を読んだ
人かと思うと親しみが湧いて、この書評家はほかにどんな本について書いているのかしら、とクリックしては読み、ク
リックしては読みしているうちに、書評の海にどっぷりと浸かって、気が付けば一時間以上が経っていた。

書評ばかりを読んでみるというのも一興である。ついでに、読みたい本が見つかるかもしれない。

<https://allreviews.jp/>